☆第２４５号　　２０２２年１０月２５日

静岡県地域史研究会報

ー 静 岡 県 地 域 史 研 究 会 ー

第四十一回総会報告

第四十一回総会及び記念シンポジウムは、去る九月二十三日（金、祝日）午前十一時より静岡市葵区追手町の静岡市歴史博物館を会場に開催された。次第は次の通り。

一　総会

（一）議長選出
（二）会務報告
（三）研究誌報告
（四）会計報告
（五）会計監査報告
（六）新年度役員選出
（七）新年度の活動方針
（八）新年度の予算審議
（九）その他

二　記念シンポジウム

「今川氏研究の現在」

基調報告
大石泰史氏・鈴木将典氏・糟谷幸裕氏
コメンテーター　黒田基樹氏
コーディネーター　大石泰史氏

総会は、厚地淳司氏の司会により始まった。小和田哲男会長からの挨拶の後、議長に小川隆司氏を選出し、右記の次第にしたがって進められた。議事詳細については、後掲の通りである。午後一時から記念シンポジウムが行われ、午後五時に散会した。記念シンポジウムの要旨は、来年九月刊行する研究誌第十三号に収載する予定である。

二〇二一度会務報告・研究誌報告・会計報告・会計監査報告

一年間の例会七で計一〇一名（平均十名参加）　↓昨年度より微増
・例会参加者は、一けたの例会は二回あった（一、二月）。
・幹事の報告が少ない。
・会場はなんとか確保できたが、教育会館もなかなか予約が取れない。
・報告者，報告内容によって参加人数に差が出る。
・報告内容は，中世六、近世四でバランスがとれていた。
・県外報告者は糟谷氏のみ。
・卒論発表会ができなかったので十月に実施した。
・書評会ができなかった。十一月に実施する予定。
※会計報告・予算等は四頁に掲載した。

会報の発行　二三九号～二四四号，計六号発行した。

歴史随想
第二三九号　大御所家康、駿府城で陪臣をもてなす　廣田　浩治
第二四〇号　鷲津村の小笠原佐渡守　小林輝久彦
第二四一号　井伊の赤備えは〝山県昌景隊の継承〞だったのか　太向　義明
第二四二号　清水船手細井勝茂と阿波蜂須賀氏　小川　雄
第二四三号　静岡市歴史博物館七月にプレオープン一月に全館開館　廣田　浩治

例会の開催

◆十月例会　十月二十三日
静岡県教育会館　地階C会議室
（十名参加）
駿河の中世郷村と地下文書
―史料学による中世在地社会論の試み―　廣田浩治氏

◆十一月例会　十一月二十七日
静岡県教育会館　地階C会議室
（十名参加）
桜野合戦（薩埵山合戦）についての考察　山田剛徳氏

◆十二月例会　十二月十一日
静岡県教育会館　地階C会議室
（十名参加）
五山派時代の臨済寺　伴内えみ氏

◆一月例会　一月二十三日
静岡県教育会館　地階C会議室
（八名参加）
遠江の荘園再考　森田香司氏

◆二月例会　二月十九日
楽寿園内三島市郷土資料館視聴覚室
（八名参加）
近世後期三島宿の伝馬役負担・災害と拝借金増加　平林研治氏
（三島市郷土資料館学芸員）

◆三月例会　（十二名参加）

静岡県教育会館　五階C会議室
牧氏事件の一考察　　森田香司氏

◆四月例会　四月二十三日
静岡県教育会館　五階C会議室
近世蒲原宿の支配代官
　　厚地淳司氏

◆五月例会　五月二十八日
静岡県教育会館　地階C会議室
（十二名参加）
駿府家康政権論—課題と問題提起—
　　廣田浩治氏

◆六月例会　六月十八日
アクトシティ交流センター四〇三会議室（十二名参加）
天正十九年に藤原を称する家康
—笠谷和比古氏・岡野友彦氏の天正十六年源氏改姓に係る所説を否定する史料—　　小林輝久彦氏

◆七月例会　七月二十五日
静岡県男女共同参画センターあざれあ四〇一会議室（十一名参加）
今川氏の天文の三河侵攻・再考
　　糟谷幸裕氏
今川氏検地の再検討
　　鈴木将典氏

二〇二二年度役員

　厚地淳司事務局長代行から新年度役員について次のように提案があり、全会一致で承認された。

顧　問　本多隆成（静岡大学名誉教授）
会　長　小和田哲男（静岡大学名誉教授）
事務局長（会誌査読）
　　森田香司（広沢小）
幹　事（会計担当）北村　啓
　　（清水桜が丘高）
幹　事（会誌担当）厚地淳司
　　（相洋高）
幹　事（会誌査読）小川隆司
　　（藤枝西高）
幹　事　前田利久（清水国際高）
幹　事　柴　雅房（県立中央図書館）
幹　事　坪井俊三
　　（浜松市文化財保護審議委員）
幹　事（会誌査読）
　　西田かほる（静岡文芸大）
幹　事　岡村　龍男（豊橋市立図書館）
幹　事　小林輝久彦（名古屋国税局）
幹　事　望月保宏（沼津工業高）
幹　事　鈴木将典
　　（静岡市文化振興財団）
幹　事（会誌査読）貴田　潔（静岡大）
会計監査　土屋比都司
　　（三島宿研究会）
会計監査　小川　勝
　　（静岡古城研究会）

　昨年度との異同はありません。

二〇二二年度活動方針

　新年度の活動方針について、厚地事務局長代行より次のような提案が示された。

〈例会の充実〉
　一例会一報告を充実させていく。会員全員にメール登録を依頼していく。コロナ対策として、広い会議室を確保していく。当面懇親会は行わない。
　年間十回の例会をきちんと行っていく。二月は東部例会で例年楽寿園内三島市郷土資料館をお借りしている。六月は西部例会で磐田市のワークピア磐田を予約予定です。三月は学生の卒業論文発表会の予定。例会をきちんとやっていくだけでなく、例会報告の内容を充実させていく。また、他地域にも報告者を要請し、多角的な視点や最新の研究成果の研究報告を進める。
　そして、最新の研究成果や他地域の研究者に積極的に声掛けして報告を依頼する。

〈会誌第十三号の発行〉
　昨年同様、会誌担当厚地氏を中心に編集していく。査読は二名の幹事に担当してもらう。

〈会報の発行〉
年間六回の会報を発行するだけでなく、会報の内容を充実させる。なお、例会が一報告になったことにより、報告要旨が少ないと紙面が埋まりません。したがって、報告者は今までより多く、十五字×六〇行～九〇行で書いていただきたいと思います。

※メール登録のお願い
koji2011@kcd.biglobe.ne.jp
受け取り次第、森田の方より、返信します。それ以降は会報及び例会案内通知葉書はメールで送らせていただきます。よろしくお願いします。
　なお、十月二十日現在で、会員の登録者は六九名です。未登録の方は右記森田のメールアドレスまでメールください。よろしくお願いします。

〈会費納入〉
　昨年度は一〇六名の会費納入者であったが、複数年納入者を合わせての数であり、まだ未納者がいる状態である。現在の会員数は一一二であり、未納者には会費納入を督促していくこととしたが**二年滞納した会員には退会を促していくこととした。**

二〇二二年度予算

　新年度予算は北村啓氏から提案され、承認された。今年も振込用紙を同封しますので、振込をよろしくお願いします。

その他〈来年度総会ついて〉
　総会で以下のように提案し了承されました。
　来年の総会には記念講演を依頼し、その分野は近世史とする。

【例会案内】

☆十一月例会
十一月十二日（土）
午後一時三〇分～四時三〇分
沼津市立図書館講座室
小田原近世史研究会編『近世地域史研究の模索—「つながり」の視点から—』の書評会
地方史研究協議会主催／小田原近世史研究会・静岡県地域史研究会共催で行います。
書評者
①**松本和明氏（静岡大学）**
②**杉本寛郎氏（富士市博物館）「つながり」の視点からの事例報告**
③**小田原近世史研究会のリプライ**
対面及びズームでの開催です。
地方史研究協議会よりの要望
【参加方法】新型コロナウイルス感染防止対策等の観点から、事前申し込み制とさせていただきます。会場でのご参加を基本としますが、Zoomを使って講演・報告を同時配信させて頂く予定です。参加をご希望される方は左記の通りお申し込みくださ

い。なお参加者多数の場合は、リモートでの参加をお願いする場合があります。何卒ご理解の程宜しくお願いします。

【申込方法】①ご氏名、③ご所属、③ご連絡先、④参加方法（会場／リモート　いずれかを明示）をご記入の上、下記メールアドレスにご連絡ください。

【申込先】kenkyu@chihoshi.jp（地方史研究協議会研究小委員会）

【締切日】十一月六日（日）

※個人で申し込んでいただいても結構ですが、申込が煩雑になりますので、森田の方で一括して申し込みたいと思います。ご希望の方は、十一月三日（木、祝日）までに森田までメールで申し込んでください。

※東部例会ではありませんが、会場確保の都合上、沼津で行い、しかも第二日曜日です。お間違えならないようにお願いします。会場はＪＲ沼津駅から南東へ徒歩七分です。

事務局より

①　歴史随想の募集・研究報告の依頼

十二月以降の報告者が未定です。三月は卒業論文発表会のため、静岡大や静岡文芸大にお願いしていきます。幹事ならびに報告希望者は小和田会長もしくは事務局森田まで御連絡ください。

〈事務局連絡先〉電話・ＦＡＸとも（〇五三）四四九―五七一一森田香司

②　会費納入のお願い

会報に振り替え用紙を同封しましたので、まだ会費を納入されていない会員は納入をお願いします。

２０２１年度支出の部

No.	科　目	本年度予算額	決算額	対前年比	内　　訳
1	会場費	42,940	40,440	−25.00	教育会館／あざれあ／産業経済会館/アクトシティ
2	例会案内・郵送費	50,000	40.871	-9.129	会報郵送・葉書・切手等
3	会報印刷費	25,000	8.374	-16.626	インク、コピー代等
4	交通費補助	50,000	10,000	-40.000	7月例会糟谷氏
5	会誌編集刊行費	200,000	170.945	-29.055	11 号会誌印刷・郵送・校正等
6	事務費	15,000	20.842	5.842	事務連絡、コピー(総会資料含む)封筒等
7	総会費	0	0	0	総会中止
8	予備費	795,060	14,040	−781.020	総会資料送付準備交通費（御殿場）
	合計	1,.178.000	305.512	872.488	

２０２１年度静岡県地域史研究会決算書収入の部

No.	科　目	予算額	決算額	対予算比	内　　訳
1	繰越金	711.254	711.254	0	前年度繰越金
2	会　費	456,000	460,000	4,000	振込 95 名、例会 1 名、過年度分 19 名分、合計115名
3	書籍売上	10,000	6,000	-4.000	会誌6冊
4	雑収入	746	0	−746	
5	合計	1.178.000	305,512	872.488	

２０２２年度予算案支出の部

No.	科　目	本年度予算額	前年度予算額	対前年比	内　　訳
1	会場費	39,980	42.940	−2,960	教育会館 4,900×2、3,700×2/6 月磐田 4,800/1 月あざれあ 4.300/2 月三島 0/沼津市立図書館 6,280
2	例会案内費	50,000	50,000	0	会報郵送・葉書・切手等
3	会報印刷費	25,000	25,000	0	インク・コピー代等
4	交通費補助	50,000	50,000	0	例会交通費(東京等遠方より)10,000×5
5	事務費	15,000	15,000	0	コピー・封筒・通信費等
6	総会費	180.000	0	180.000	講師謝礼 170,000 他諸経費
7	会誌編集刊行費	350,000	200,000	150.000	12 号会誌（別冊歴史随想を含む）印刷・郵送・校正等
8	予備費	596.020	795.060	− 199,040	
	合計	1306.000	1.178.000	128.000	

２０２２年度予算案収入の部

No.	科　目	本年度予算額	前年度予算額	対前年比	内　　訳
1	年会費	424.000	456.000	−32,000	4,000×106 名
2	繰越金	871.742	711.254	160,488	
3	書籍売上	10,000	10,000	0	1,000×10
4	雑収入	258	746	−488	
	合計	1,306.000	1.178.000	128.000	

静岡県地域史研究会報
第２４５号
２０２２年１０月２５日発行
静岡県地域史研究会

会長　小和田哲男
事務局長　森田香司(053)449-5711
会計担当　北村　啓(090)4230-6530
〔会費納入先〕
424-0949 静岡市清水区本町９－８
北村啓気付ＴＥＬ090-4230-6530
郵便振替口座　00880-3-63062
年会費　４，０００円